

総合的な学習の時間	第1学年	尾道市立瀬戸田中学校	指導者1学年部教諭・3名 家庭科教諭
題材名	S L P（瀬戸田レモンプロジェクト） ～レモンを使って町おこしを～		
本題材で育成する資質・能力	【思考力・判断力・表現力】 主体性, 問題解決能力		
キャリア基礎的・汎用的能力	【人間関係形成】プレゼンテーション能力		

1 日 時 令和元年7月16日（木）5校時（13：30～14：20）

2 学年・学級 第1学年1組（男子22名，女子18名）
れもん学級（男子1名）

3 場 所 図書室

4 単元について

（1）題材観

中学校学習指導要領総合的な学習の時間編（平成29年）の第2節の各学校の目標を受け、総合的な学習の内容を定める。特に探求的な課題の設定と解決を通して育成する資質能力について、本校の目標である「プレゼンテーション能力の育成」に重点をおいて指導できる題材であると考えて設定した。

本題材は、本校の総合的な学習の時間において「瀬戸田レモンを使用したお菓子の開発 S L P（せとだレモンプロジェクト）の学習により、生徒が瀬戸田の発展のために取り組んだ活動と総合的な学習の時間及び家庭科や美術科などの各教科と共通する「知識及び技能」や「思考力、判断力」を総合的に働かせて取り組むことのできる内容である。地域と学習内容の密接な関係を意識させることで、企画、開発、デザイン、販売までを行いながら、「自ら主題を生み出す力」を育成する。

また、本題材は、瀬戸田小・中・高等学校の3校による合同事業において、瀬戸田小学校がパッケージデザイン、瀬戸田高等学校がマーケティングを担当しており、この題材の最終的な発表の場として、S L P（瀬戸田レモンプロジェクト）のお菓子の実践販売につながっており、地域社会の中での役割を知ることができる。

（2）生徒観

総合的な学習の時間で行った調べ学習で次のような実態が明らかとなった。

「瀬戸田の良いところを伝える為にどんなレモンの製品をつくりたいですか？」という質問に対する結果では、①スイーツ。65% ②調味料や飲み物。32%③グッズや香水3%となり、スイーツの開発で伝えたい意欲が高いことがわかった。

生徒は、瀬戸田レモンプロジェクトと題した総合的な学習の時間により、レモンのお菓子を開発する学習において、「新しいレモンのスイーツを作って瀬戸田の良いところをアピールできる」と考えている生徒が多数おり、生徒の制作意欲は高いと考えられる。そのため、本題材での学習に対して興味を持ち、身近にとらえることで関心を持てる状態である。

(3) 指導観

本時までに、生徒はレモンのスイーツの様々な種類などを、瀬戸田地区の土産調べや、レモンの製品調べを通して学習を重ねてきた。本時では、「お菓子のカップを選ぶことで具体的にスイーツの完成形を予測してレシピの開発をする」という活動を行う事で、主題を生み出し構想を練り制作する能力の育成につなげたい。

また、家庭科と関連して授業を行うことで食品制作における「レシピ」の書き方と、瀬戸田地区の洋菓子店「しまごころ」の奥本様の講話により、「焼き菓子を成功させるための正確な配分」の知識を学習することで、より良いものを制作する活動に取り組ませたい。パワーポイントを使い制作の手順を分かりやすく示しながら、お菓子制作のイメージを共有し、楽しく活発に「カップを選ぶ活動」に参加できることで、自分の構想を表すことに苦手意識をもつ生徒も、「他者に発信するためにお菓子を開発していこう」というプレゼンテーションの意識も持って取り組ませたい。

単元の目標

地域の課題を理解し、瀬戸田の名産「れもん」を使って課題の解決策を考えることができる。

6 指導計画

次	授業内容	生徒の取り組み
一 ～ 四	課題設定	
	①校長より	
	②Excel の使い方	タイピングの確認、表の作り方、グラフの作り方
	③SLP 導入	レモンが関係した物探し 50 個（ワークシート） ●子ども発信でどんどん出させる。制限はあとから
	④奥本さんによる講演 +ゴールをどこに設定するかアンケート ●着地点を先にきめる（メディア戦略を夢に）	(ア)自分達で開発可能なレモンの製品をという視点について (イ)製品を開発する工程のイメージについて (ウ)ゴールをどこに設定するかのイメージ (エ)実働のゴール(2月の製品コンテストまたは市長訪問など) ●着地点を先にきめる（メディア戦略を夢に）
五 ～ 十一	情報収集	
	⑤マーケティング 調べ学習 レモンを用いた商品の売れている理由の研究	(ア)町おこし課でもらった資料をもとに調べる。 (イ)レモンを用いた商品の売れる理由の研究 ⇒ インターネット・本・パンフレットから
	⑥⑦マーケティング 調べ学習	
	⑧調べたことの紹介	発表
	【本時】⑨【家庭科】奥本さん第2回目来校	夏休みのレシピ作成についてのポイント

	⑩⑪夏休みの取り組みの確認 生口島・高根島にあるお店にインタビュー・市場調査	(ア)夏休み中にお店にインタビューをする ・売れている商品 ・売れるための工夫 など (イ)電話でお願いする方法の確認
	レモンを用いたお菓子のレシピ考案(夏休みの宿題)	
十二 〜 二十七	解決策の創造	
	⑫SLP 実動グループの作成	夏休みに考えてきたメニューの中でベスト4を決める。
	⑬PowerPoint の使い方	文字・図の挿入・アニメーション・発表原稿
	⑭⑮レシピの精選	(ア)各グループでレシピを持ち寄り, どのレシピが良いか, どのような改善をして, より喜んでもらえる商品にするかを考える。 (イ)(ア)で必要な材料などのレシピを考える・調べる。 (ウ)完成品のイメージ図をかく。 (エ)試作に当たってどんなことを工夫したか, どんな思いで作ったのかを考える。
	⑯⑰⑱試作&評価(1年生&教職員&奥本さん)	(ア)⑯⑰で試作を行う (イ)⑱で自分たちの作品のPRを, パワーポイントを用いて発表し, 試食してもらう。 (ウ)PMI シートを用いて, 各班の評価をする。
	小学校に, 製品のパッケージデザインのアイデア(イラスト・文字)を依頼 高等学校に, 販売コンセプト・キャッチコピー・価格決定のためのマーケティング調査を依頼	
	⑲⑳㉑分析をもとにレシピの再編	(ア)授業から自分たちのお菓子里に足りないところを考え, 改善する。 ※文化祭に向け, どんな人が食べるのかも考慮に入れて考える。提供のしかたも含めて。
	㉒㉓㉔㉕SLP 班で今までの取り組みや商品のアピールなどをパワーポイントにまとめる	(ア)今までの取り組みの全体像・改善した点発表。 原稿を見ずに発表できるよう準備をする。
二十八 〜 三十二	㉖㉗パワーポイントを用いて班ごとに発表	(ア)今までの取り組みの全体像・改善した点発表。 (イ)原稿を見ずに発表できるよう準備をする。
	解決策の発表	
	㉘㉙リーダー→文化祭発表用のパワーポイントを作成・発表練習 リーダー以外→文化祭に出すお菓子の試作&各グループの掲示用スライドの作成	(ア)SLP の全体像…5〜8分 3つのスイーツの紹介…3分ずつ (イ)掲示用スライドはパワーポイントと読み原稿を1枚に印刷してはる。

三十三 〜 三十八	③①文化祭前日準備	お菓子作成（生徒＋教職員＋保護者）
	文化祭：スライドの発表&試食 全員に試食をしてもらい 4 つのう ちどの商品がおいしいか投票をし てもらう	(ア)各グループごとにパワーポイントを用いて発 表する。 (イ)お菓子とアンケート用紙を配布する。
	③②文化祭のアンケート集計・発表	文化祭でのアンケート結果を発表し、今後取り組 む内容の見通しを持つ。
	小中高の児童生徒代表者でパッケージデザインの最終決定（広島テレビ取材）	
	解決策の実施	
	③③③④③⑤③⑥③⑦ 4 商品のレシピを書いたパンフレ ット作成 しまごころさんでの製品化	材料・作り方の手順・商品への思いなどイラスト や配色を工夫しながら作成する。
	③⑧完成商品お披露目会＋試食 （広島テレビ取材）	(ア)教育長訪問で行う発表を聞き、PMI シートを 用いて評価する。 (イ)完成品を試食する。
	2 月 18 日教育長訪問 （SLP 成果発表） 3 月 1 日 尾道市おやつコンテス ト応募 3 月 7 日 尾道駅前で販売 3 月 14 日 広島本通り商店街 ひろしま夢ぷらざで販売	(ア)試食・パンフレットを配布する。 (イ)商品を販売する。

7 本時の学習

(1) 本時の目標

自分たちが考案するレモンを使ったスイーツに合ったカップを選ぶことができる。

(2) 準備物

プロジェクター、PP の資料、パソコン、カップの見本

(3) 学習の展開

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆生徒への指導の手立て
○本時の学習内容の確認	
○本時の学習課題を掲示	
めあて 自分たちが作るレモンを使ったスイーツに合ったカップを選ぶことができる。	

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆生徒への指導の手立て
○今後の流れを説明する ・夏休みにレモンを使ったお菓子を1つ作ってみる。 ・夏休み考案のレシピから6品にしぼる。 ・試作と審査を行い、3品にしぼる。 ・文化祭で1品を生徒・保護者・地域の人に試食してもらう。	(家庭科教諭より)
○お菓子作りの心構えやレシピの書き方の説明 ○島ごころの商品を試食 ○焼き菓子やゼリーなどスイーツの種類によってカップがどのように変化しているかを説明する。 ○実際にカップを生徒が見て回る ○自分が選んだカップをもとに、どんなお菓子が作れるか話し合いをする。	(講師：奥本さん) ◇お菓子作りの心構えの講話を通して、食べてもらう人のことを意識させる。 ・実際にお菓子屋さんが使っている割合をつかったレシピの立て方を説明する。 ◆実際に売られている商品を食べ、これから考案するレシピをイメージさせる。 ◆パワーポイントを使って、商品によっての違いを想起させる。 ◇これから考案するレシピをイメージさせながら、選ばせる。
○振り返りのポイントを意識しながら記入する。	◇振り返りのポイントを説明する。
【振り返りのポイント】 ○今日の学習で分かったこと、学んだこと ○これからどのようなスイーツを作りたいか自分の思い。	

8 瀬戸田レモンプロジェクトによる成果物

